

A班：共に生きる ～住民と行政の関わり方～

班員

立川大貴 浅野陽平
門澤大 末永萌の夏
三浦大輔

目次

1. フィールドワークで見つけた課題
2. アンケートの実施目的
3. アンケートの結果
4. おだか千本桜プロジェクト

「もっと住民の立場に立って耳を傾けてほしい」という声があった

→住民のニーズと行政の施策の間にズレがあるのではないか

「小高復興拠点施設がどんな施設になるのか具体的な情報が全く分からない」

→この意見は住民と行政の意見交換が上手く行われていないのではないか

「もっと地元の人たちで町を盛り上げていかなければならないのではないか

→第三者に頼っているコミュニティ構築の現状

フィールドワークで見つけた課題

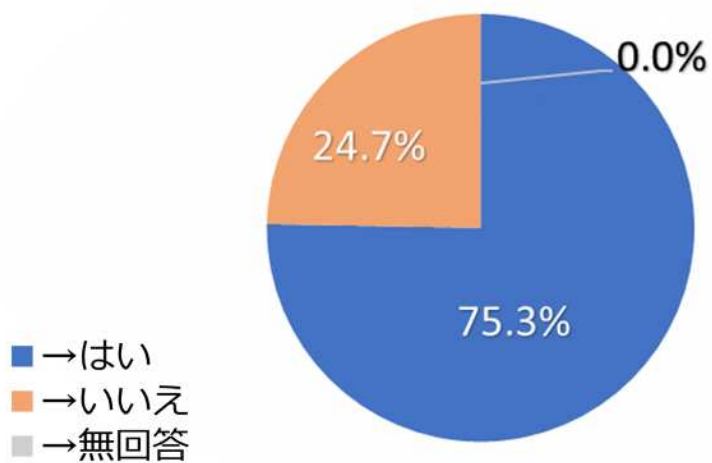
- ・住民のニーズと行政の施策の間にズレがあること
- ・住民と行政の意見交換が上手く行われていないのではないか
- ・第三者に頼っているコミュニティ構築の現状

アンケート調査の実施 (85名)

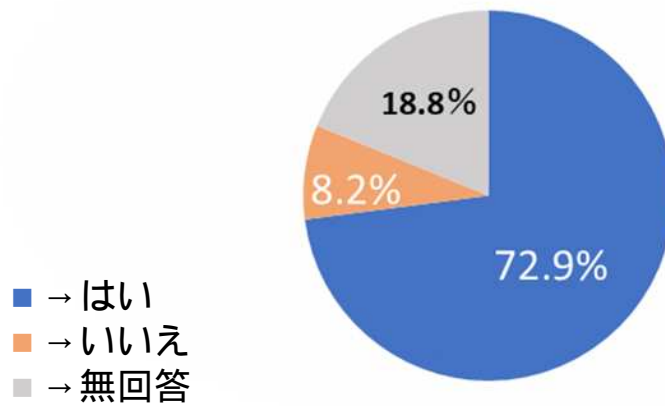
アンケートの目的

- ・ 住民の意思を目に見える形で行政の方にお伝えするため
- ・ 住民同士での意見の共有、コミュニティの構築の促進のため
- ・ 未来を見据えた新たな取り組みの発見のため

小高に住んでいる



行政とのズレを感じる



このような意見があがりました

「行政から従わなければいけないものを感じる」

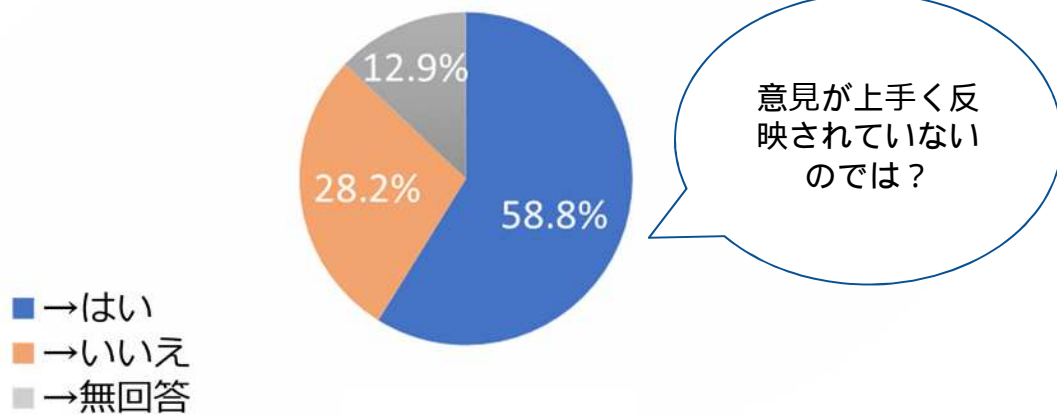
「住民の立場に立って、耳を傾けてほしい」

「望んでいることが却下されてしまう」

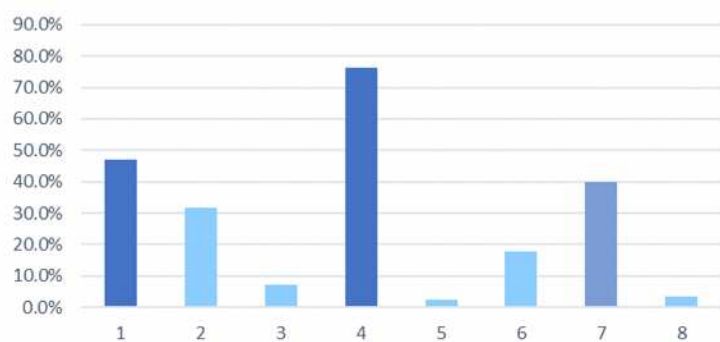
「行政の意図が伝わらない」

「立場が違うのでズレがある方が良い」

話し合いの機会が十分ある

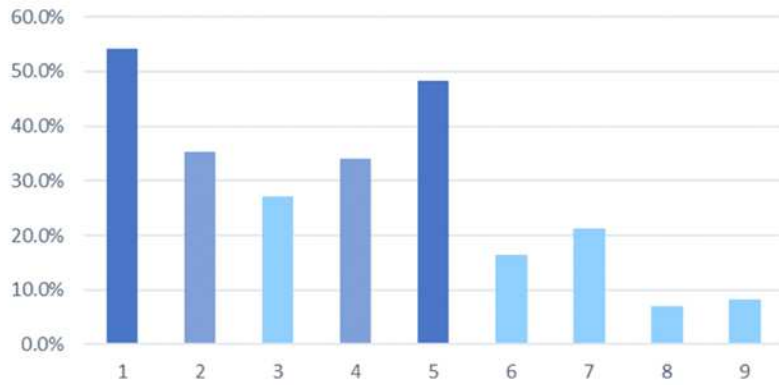


情報の入手手段



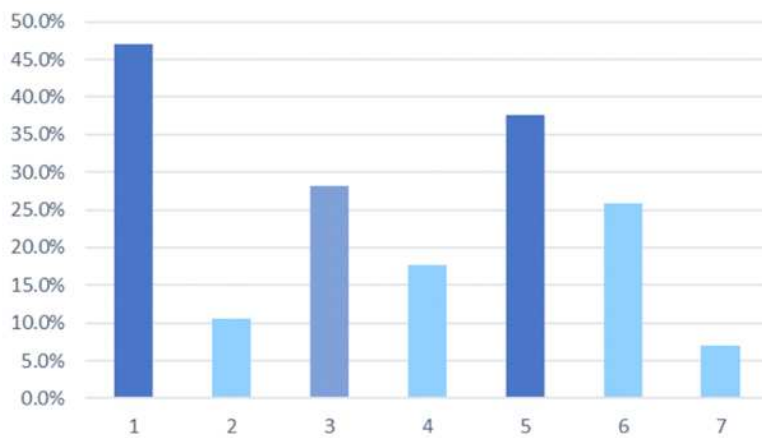
- (1) 新聞
- (2) テレビ
- (3) ラジオ
- (4) 市政だより等の広報物
- (5) ブログ
- (6) ホームページ
- (7) 友人との会話
- (8) その他

復興の妨げになっているもの



- (1) 風評被害
- (2) 行政との連携不足
- (3) 住民間の連携不足
- (4) 人手不足
- (5) 高齢化
- (6) 健康への影響
- (7) 就職先の確保
- (8) 友人との会話不足
- (9) その他

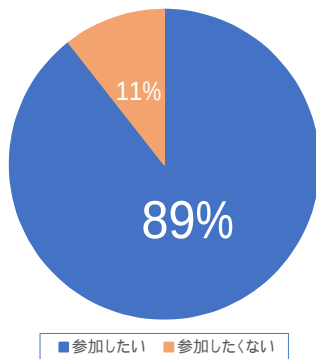
生活の中の不安や心配



- (1) 自分や家族の健康
- (2) 住まいに関すること
- (3) 生きがい・将来
- (4) 経済的なこと
- (5) 生活支援サービス
- (6) 風評被害
- (7) その他

まちづくりに参加したいですか

まちづくり参加したいですか



このようにまちづくりに参加したいと考える人が多いことがわかりました。

アンケートの回答から見ると、「美しい町をつくるための花いっぱい活動や清掃活動」をしたいとの声が最も多くありました。



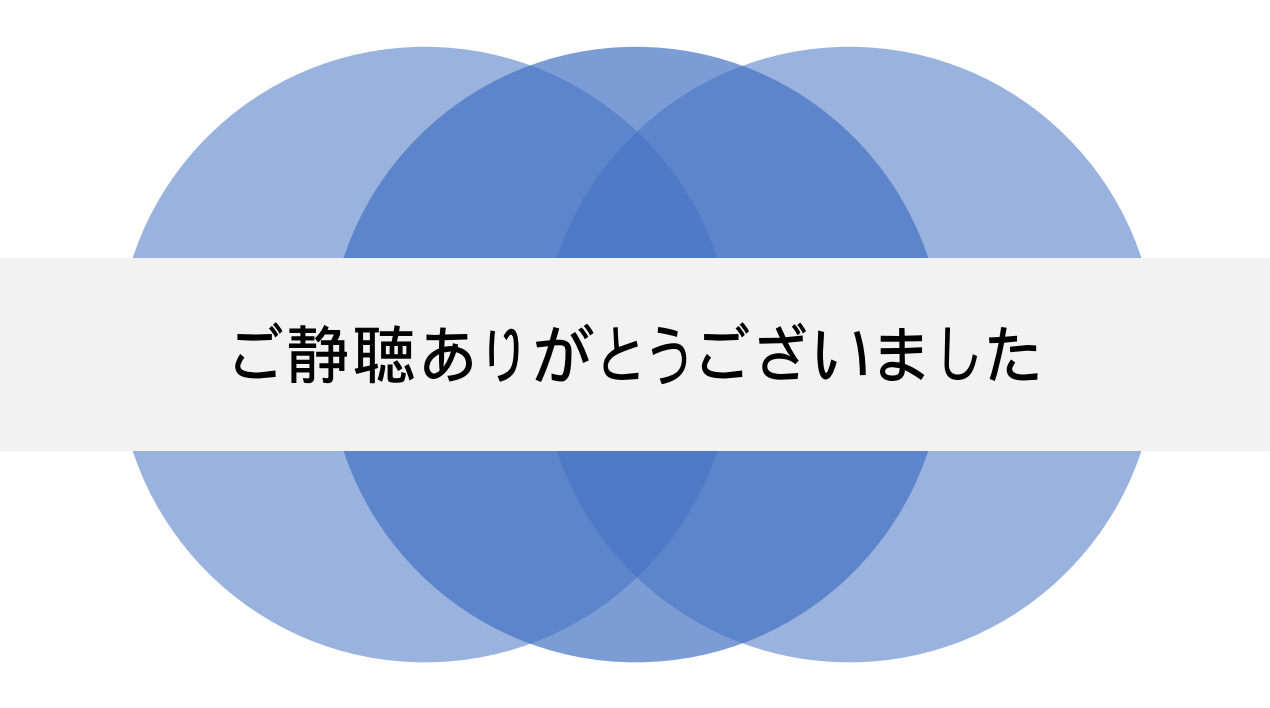
おだか千本桜プロジェクト

おだか千本桜プロジェクトについて



震災後7年経過した今の小高





ご静聴ありがとうございました

南相馬・小高区・PR

～夢駆けるまち～



PR

- ・ 写真や動画を撮る（自己）
- ・ 写真や動画を募集する（他人）

SNSで発信する

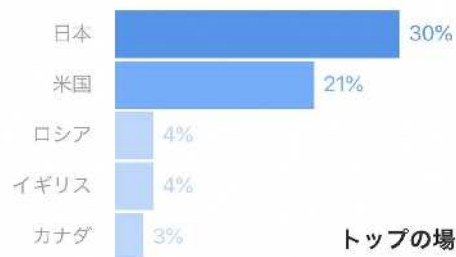


SNSの活用

[Twitter](#) や [Facebook](#) 、InstagramなどのSNSは、利用者・利用時間ともに増加傾向にあり、ビジネス等へのSNS利用を考えないという選択肢はなくなりつつある。

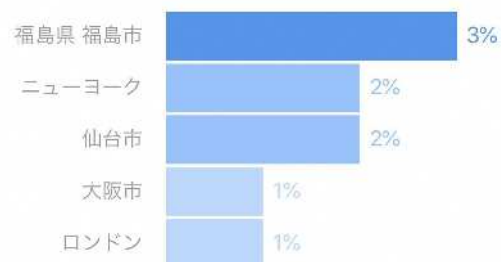
トップの場所 ⓘ

市区町村 国

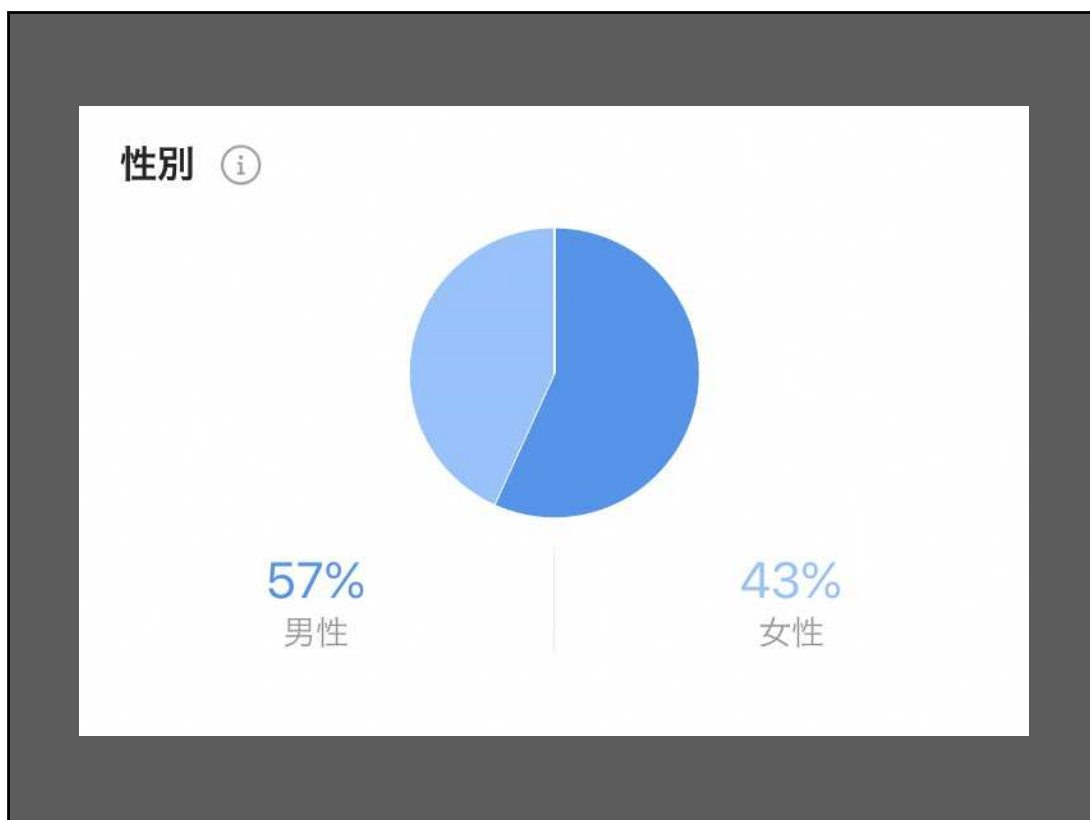
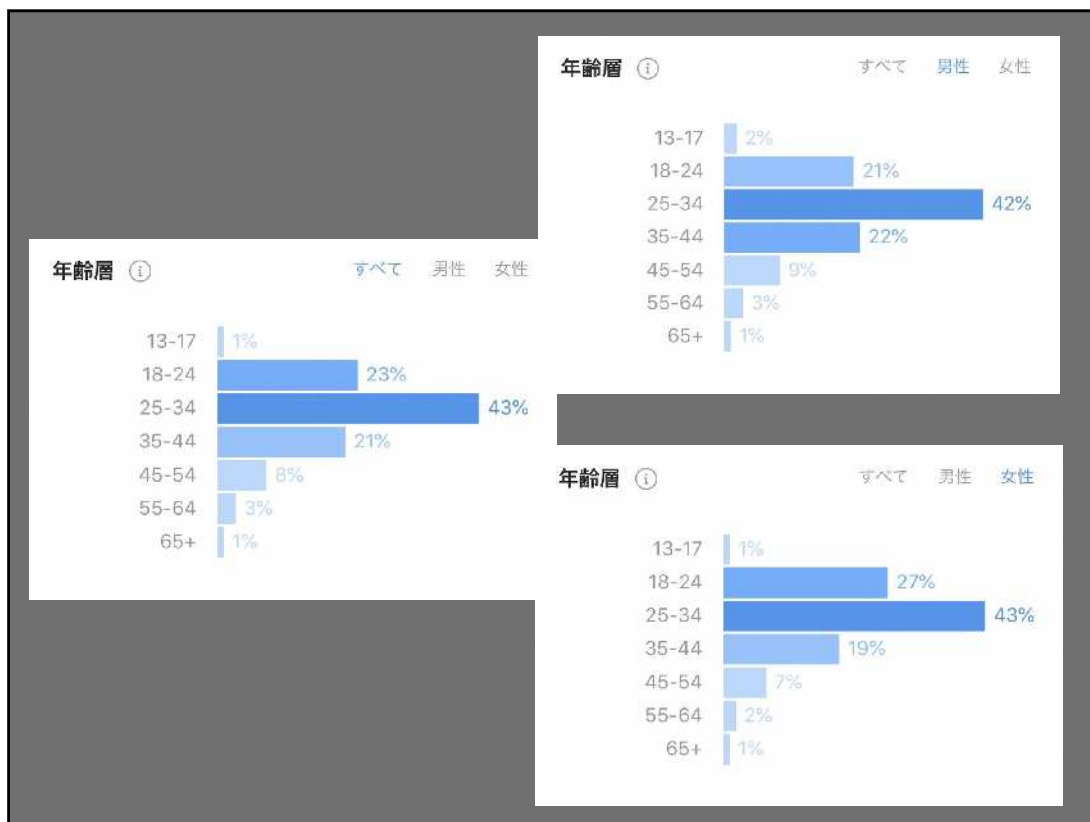


トップの場所 ⓘ

市区町村 国



「むらの大学」 B班(小高PR隊)

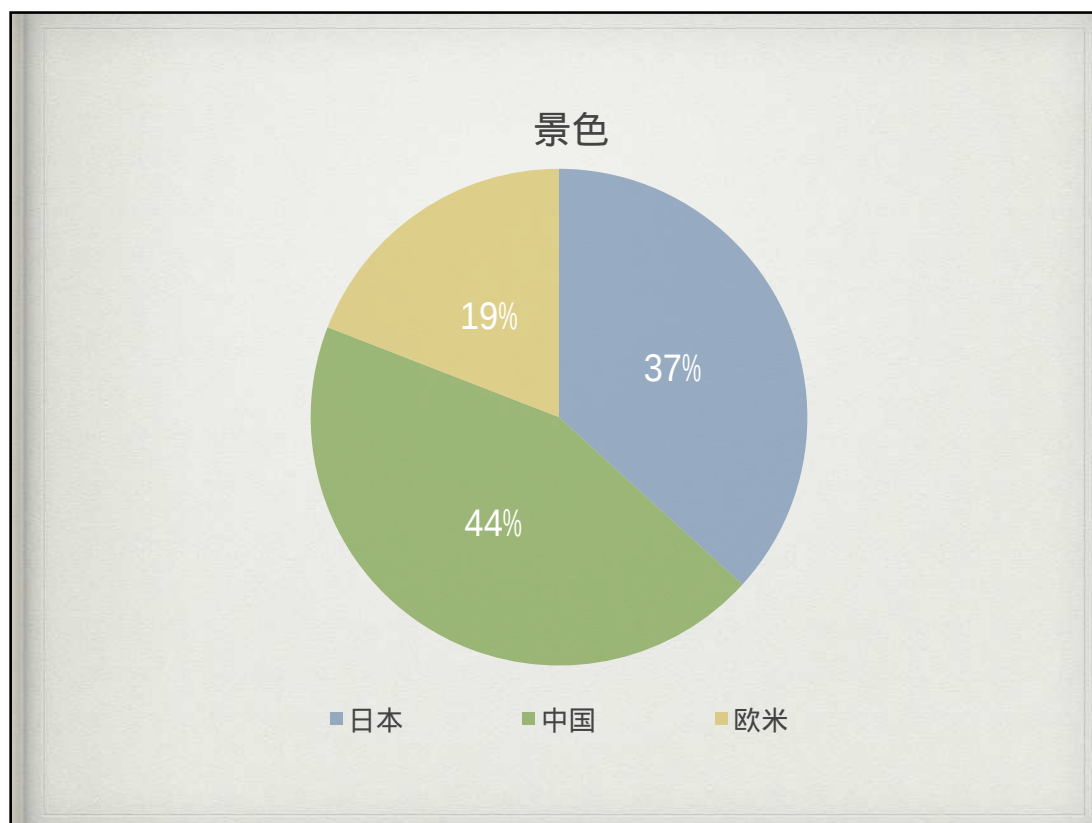
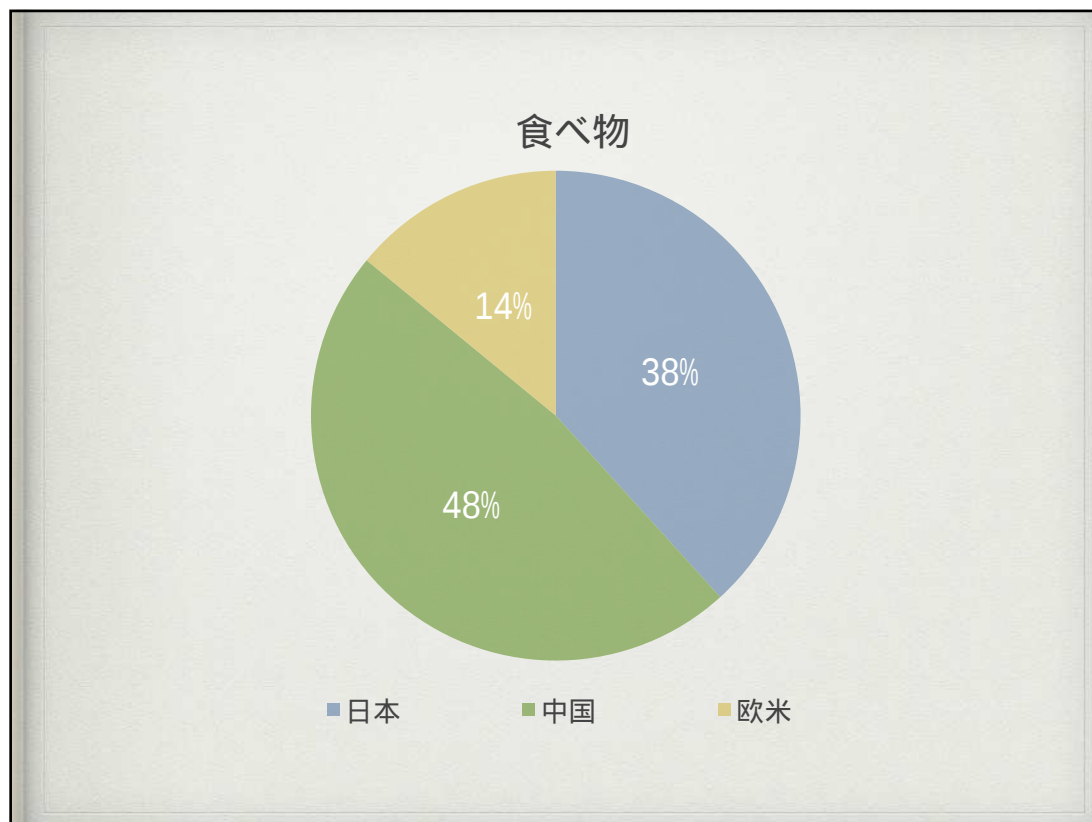


調査結果・分類

- 食べ物
- 風景

日本・中国・欧米

By ZHIWEI LIU
YURI ♡♡

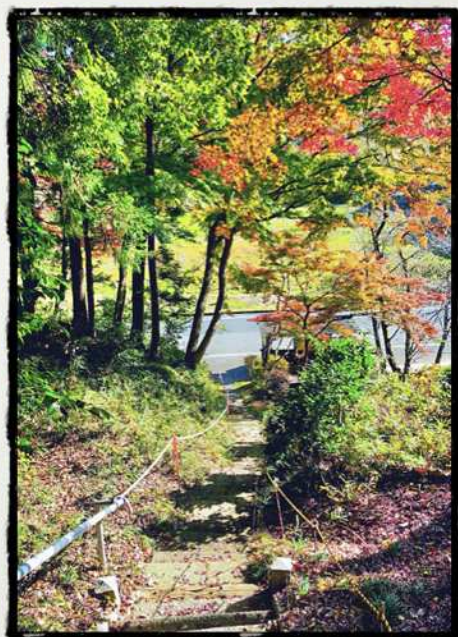


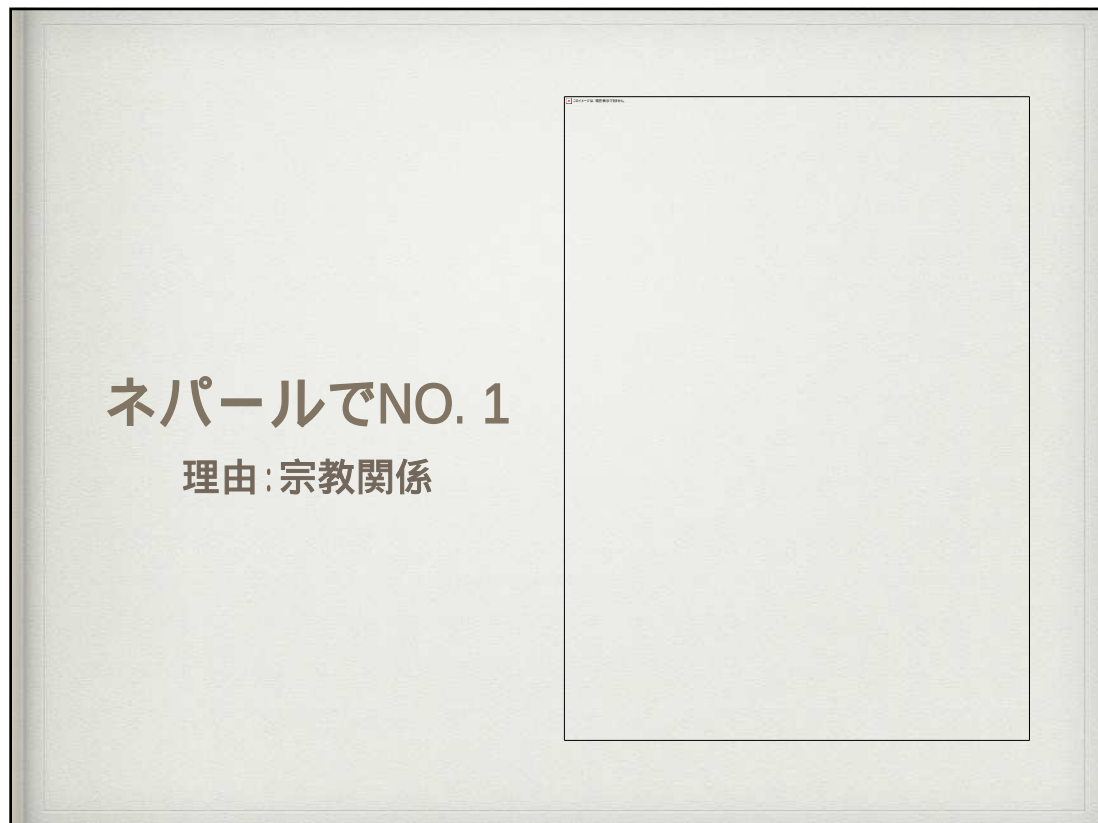
日本・中国・欧米

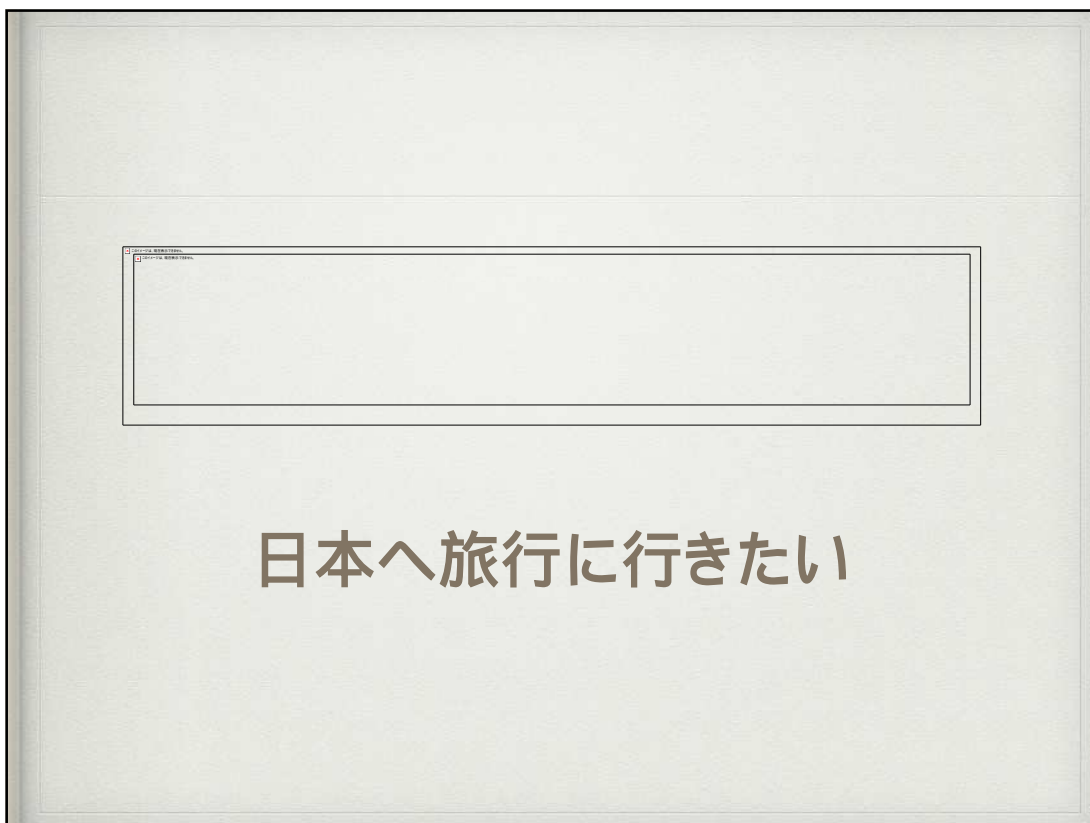
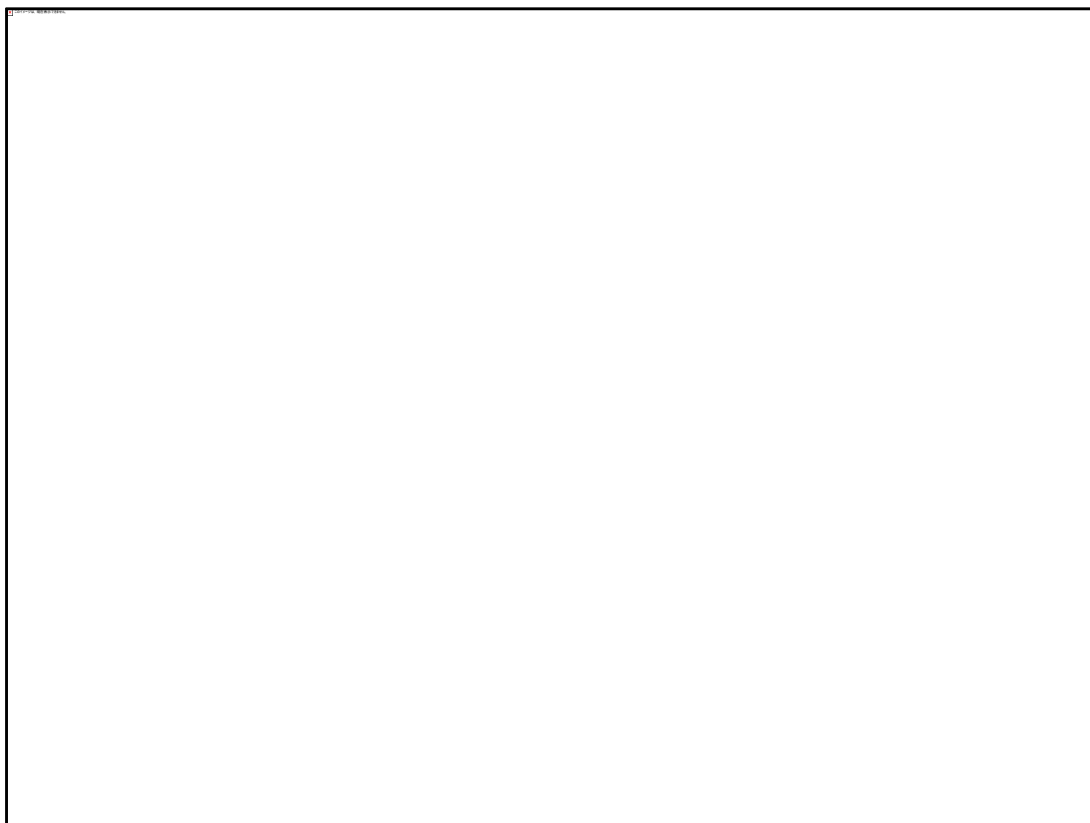
- 日本：食、風景
- 中国：食、風景
- 欧米：食、風景

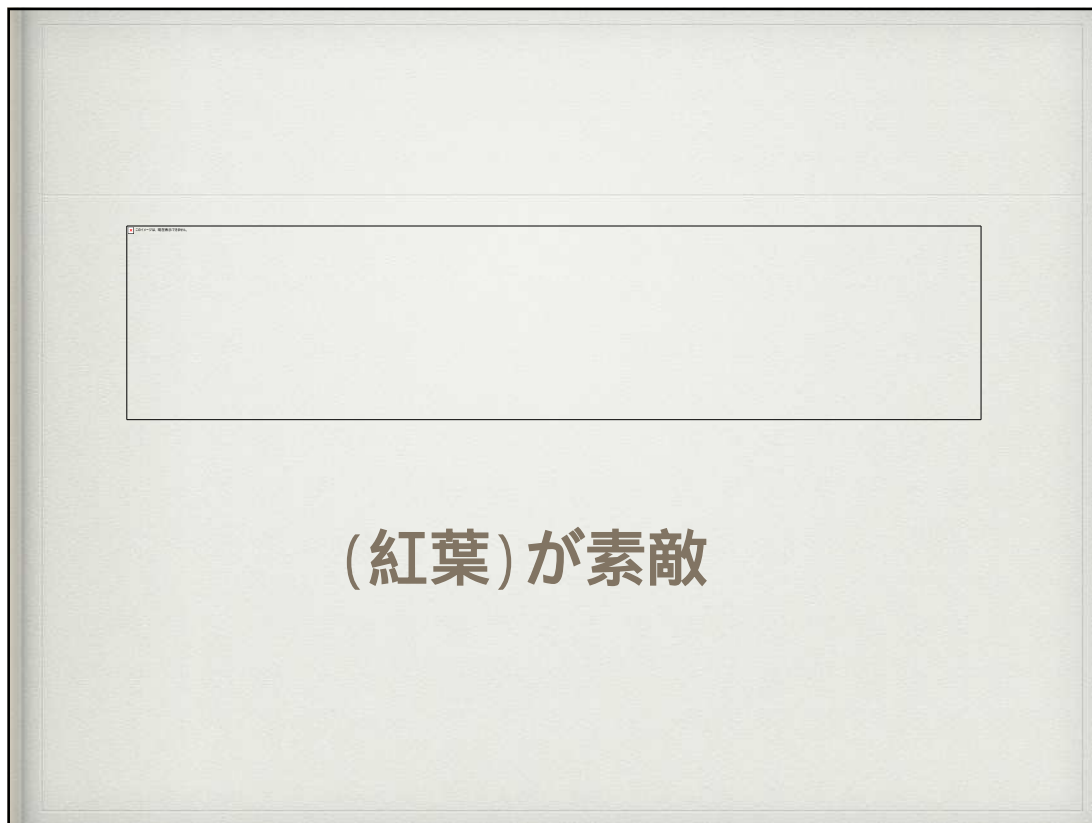
NO. 1 写真

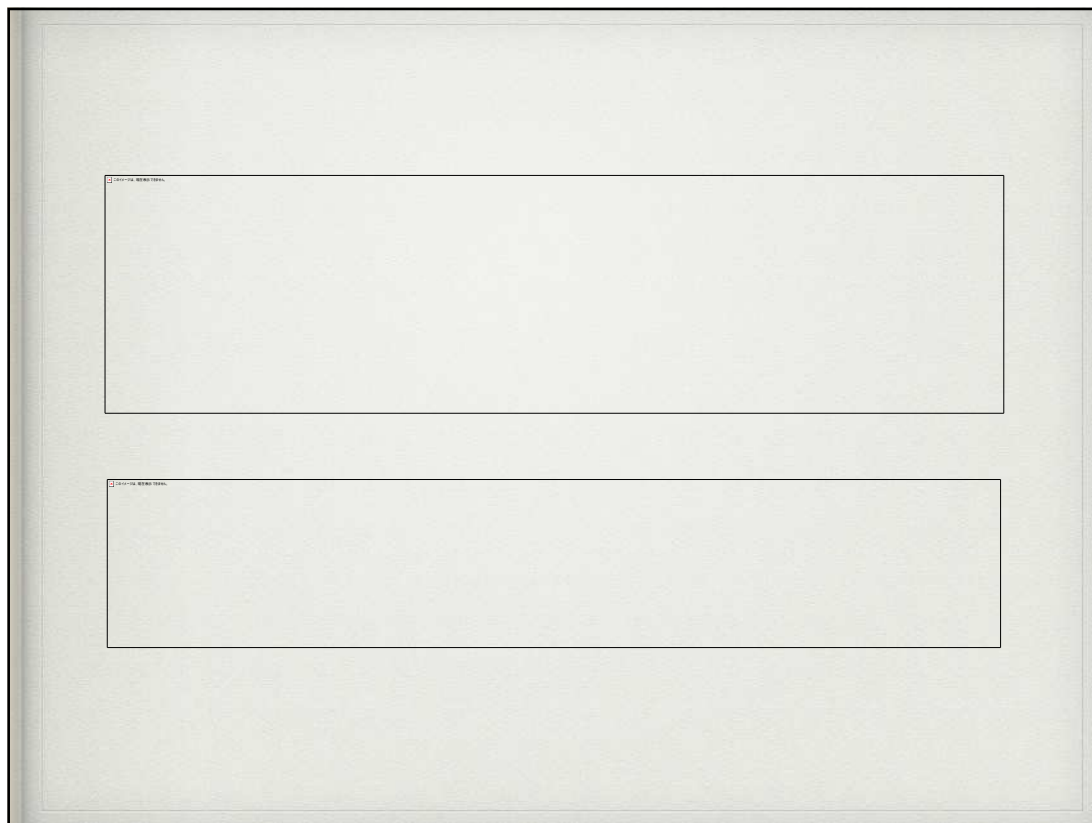
大悲山













まだある問題点

- ・ 注目度はどうやって増やす
- ・ 観光 & 保存
- ・ 風評被害

観光被害

観光がもたらす様々な弊害のこと。

例えば、車両乗り入れによる震動・騒音

・ 排気ガス・渋滞、ゴミの投棄、プライバシー侵害、受け入れのための開発や景観破壊、環境破壊など。

日本

最終的に世界遺産への推薦を取り下げた
[鎌倉](#)も、[ICOMOS](#)による現地視察調
査のレポートで、慢性的な交通混雑が
及ぼす[文化財](#)への影響が指摘され、
「不登録」勧告が成された。

ご静聴ありがとうございました！

-ZHIWEI LIU

新しい小高

羊班 金子智哉 有賀建舟 伊勢はづき
白井万智 柏木葵心 林崎雪音

FWでの問い

小高の住民は
新しい小高にしたいのか、
元の小高に戻したいのか。

FWで学んだこと

新しい小高をつくっていきたくて

ー人口が少

**新しい小高を作るために
外部から小高に来る若者
[交流人口]を増やしたい**

くには外部の意見が大切

高に来ないと分からない魅力がたくさん

交流人口とは

- その地域に訪れる（交流する）人のこと。その地域に住んでいる人、つまり「定住人口」（又は居住者・居住人口）に対する概念である。
- その地域を訪れる目的としては、通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、アミューズメントなど、特に内容を問わないのが一般的である。

Wikipedia参照 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%A4%E6%B5%81%E4%BA%BA%E5%8F%A3>)

**小高と関わりを持つ若者を
増やしたい!!!**

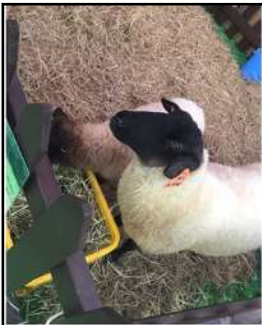
おだか秋まつりに向けて

- 羊毛フェルトを使った
アクセサリーの作り方



- SNSを使ってイベントの告知
- 小高の羊をキャラクター化

- 顔出しパネルと
プラカードの作成



秋祭り 小高の羊の周知に成功
➡羊には魅力がある!!

+

F W 小高に来る若者を増やしたい

||

福島大学に羊を連れてこよう!

**福島大学に
羊を連れてくる**

学生を癒やす

学生の意識を
変える

交流人口を
増やす

知ってもらえる

来てもらうための
きっかけ作り



私たちにできること

福島大学生に知ってもらおう

- ・小高区の現状や魅力について
- ・小高の羊について
 - 小高に行くためのきっかけ作り
 - 交流人口

福島の学生だけど、震災関連のことにあまり興味が無く、
一部の授業をとっていないと知るきっかけも無い。
小高に来てもらうためにはまず、
私たちから働きかけないといけない。

イベントの概要

日時	H30年12月19日(水) 12:30～14:30
場所	福島大学 生協前
内容	羊ふれあい体験とエサやり体験 写真展 小高の写真を展示 チラシ配り➡小高紹介 ➡農業班のチラシ

イベント当日の写真



イベントに来てくれた人数は...

約 2 5 0 人

配ったチラシの枚数は...

約 4 0 0 枚

イベントをやってみて

- ・ 学生の羊への関心度の高さに驚いた
- ・ 学生に楽しんでもらえた
- ・ 小高の羊の存在を認知してもらうことができた
- ・ 小高を知ってもらう良いきっかけ作りになった

大成功!

ありがとうございました。

最終報告会

継ぐ ～野馬追と海と千本桜～

南相馬 歴史文化班

野馬追の魅力

- 1000年続いている
- 無形文化財に指定されている
- 震災を乗り越えた
- 地域の安寧と安全を祈願した行事

etc.

→ 伝統色の強い行事



課題

長く続いてきた伝統を今後に残していくには？



継承の担い手である若者が必要

現在の小高にいる若者が野馬追について
どう思っているのか？

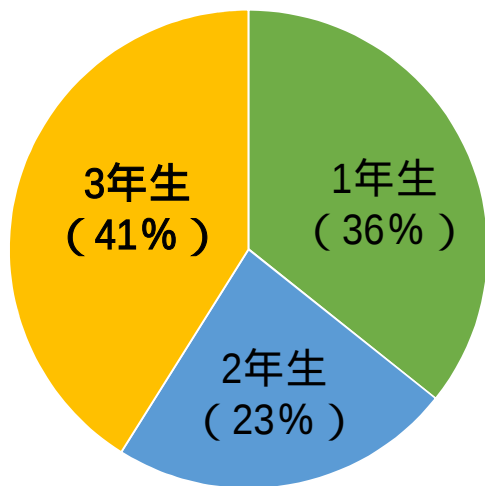
「野馬追に関するアンケート」を実施

- ・野馬追を見たことがあるか
- ・野馬追に興味があるか
- ・野馬追が将来残って欲しいか
- ・将来野馬追に関わりたいか
- ・甲冑や装飾品に興味があるか
- ・授業などでの野馬追の印象

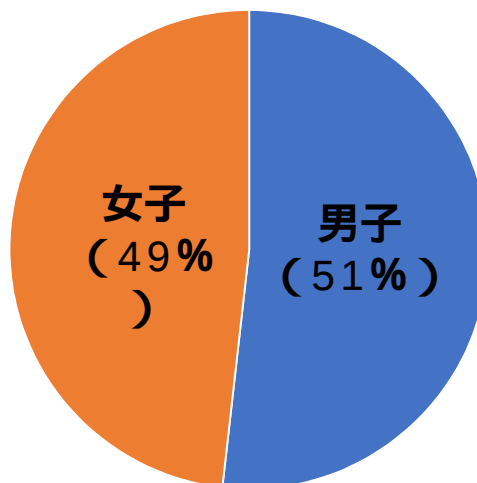
協力校 小高中学校(生徒56

小高中学校の生徒へアンケート実施

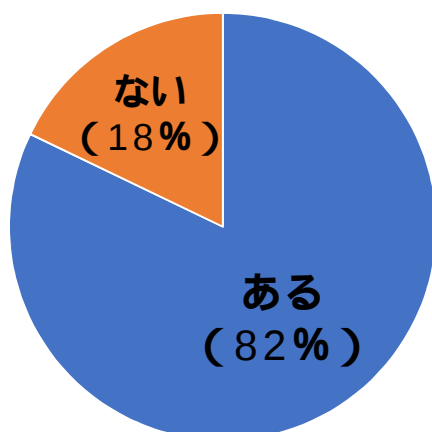
アンケート協力母体数



男女比



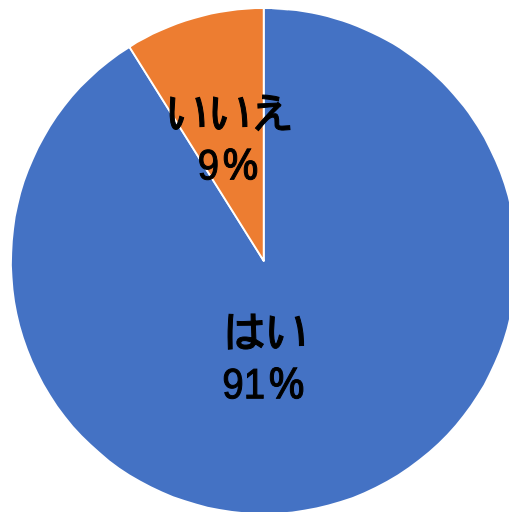
野馬追をみたことがあるか



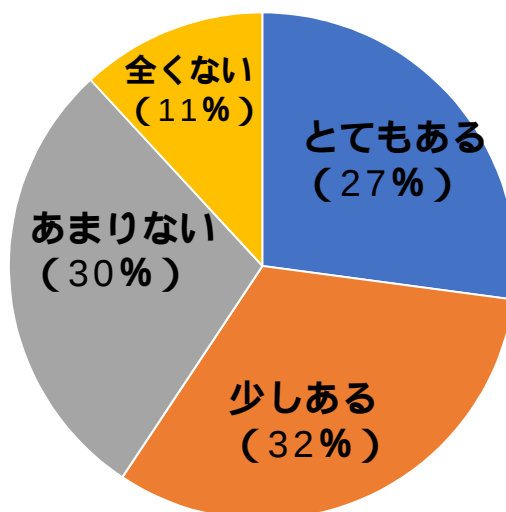
3日間の日程の中でも多いのは

お行列 火の祭り 野馬懸

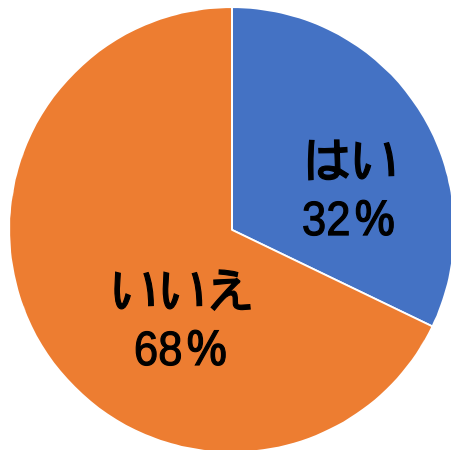
将来野馬追が残って欲しいか



野馬追に興味があるか



将来野馬追に関わりたいか



- ・「はい」と回答した人の中で関わりたいと思った内容

手伝い・・・1人
馬の世話・・・6人
PR活動・・・7人
観光ガイド・・・4人
その他・・・2人

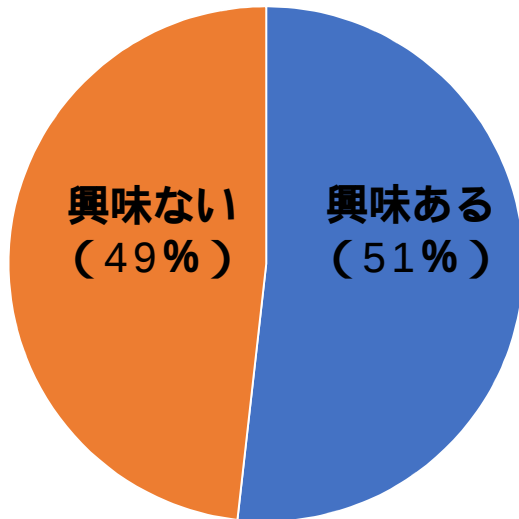
アンケートを通し見えた課題

野馬追は将来残って欲しいとの声大多数

しかし...

**興味がない人が多く
将来関わろうとは思っていない**

甲冑や装飾品に興味があるか 提案



子どもたちが興味のあるもの

||

興味関心が高まる



後継者不足を解消する

海の魅力

- こども達が遊べた
- 釣りを楽しむ人がいた
- 砂浜が広がっていた
- キャンプ場があり多くの人を訪れていた。
- 魚や貝などの様々な海の幸が捕れた



海の現状

- 工事中で海に入れない
- テトラポットにより砂浜が消えてしまった
- 海岸沿いに活気がなくなってしまった



海が震災により姿を変えてしまい、今後の海との関わり方がどうなるか分からない

地域の方々は今後の海についてどう考えているのか

海についてのアンケート

- 海岸工事の終了について
- 海に対する印象
- 小高区での海での思い出
- 今後の海との関わり方
- 海は好きか？

回答数3 無回答2

Q.海岸工事の終了について

- ・現状を知っているという声があった

Q.今後の海との関わり方

- ・工事が終了した後・・・前向きな回答、イメージが湧かないとの回答
- ・前向きな声があった
- ・必ずしも全体の声ではない

Q.震災前後の海に対する印象

Q.海は好きですか？ / 思い出はありますか？

- ・回答してくれた方は好きと回答
→ 思い出と共に回答



おだか千本桜プロジェクト



- ・佐藤宏光さんを筆頭に小高を千本桜の名所にするための活動
- ・現在は桜のプロジェクトと平行して水仙の植栽を行う
- ・植栽には地域の多くの方が参加

水仙植栽会参加を通しての気づき

- ・桜や水仙の植栽
 - ．．．．．将来の観光資源
- ・地域の方々による活動
 - 植栽会などのイベントが地域のコミュニティ
 - 将来の開花に向けての恒例イベント
 - ．．．．．新たな伝統資源



歴史文化班の活動内容

おだか千本桜プロジェクトの
PR活動
植栽会参加記念

→ 水仙を福島大学構内に設置

ご清聴ありがとうございました

活動報告

むらの大学 南相馬市小高区 農業班



農業は未来産業だ！ 若き力を小高へ

稲見ひかり 遠藤健次
鎌田映花 沼部一輝



目次

- 1．小高区の魅力
- 2．農業の課題
- 3．活動報告
- 4．活動結果



1 . 小高区の魅力

小高の魅力は？

田畑の風景の綺麗さ

有機農業の価値

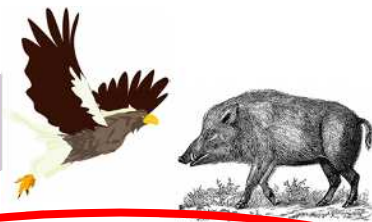
ソーラーシェアリング先駆けの地

スマート農業



2 . 農業の課題

鳥獣被害



放射線による風評被害

若者農家の減少



放射線による風評被害

- ・ お米の価値が下がっている・・・
- ・ 菜種油の製造依頼を断られる

若者農家の減少

農家の後継者を確保

新たなことにチャレンジできる
あらゆる仕事をこなすことが可能



3 . 活動報告

フリーペーパー



内容

- ・ 放射能について
- ・ 若手農家にインタビュー
- ・ 新たな農業「半農半エネ」

[illegible]

配布

履修者数 200 人超の講義にて配布

羊班主催イベントにて生協前で配布

計 5 0 0 部



福島大学生 およそ 8 人に 1 人に配布！

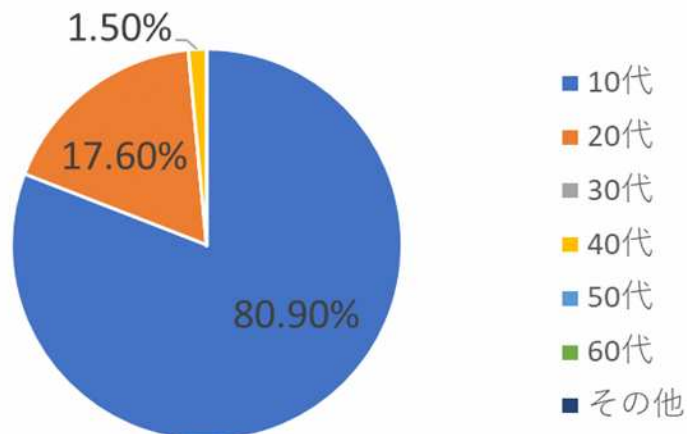


69 件の回答

4 . 活動結果

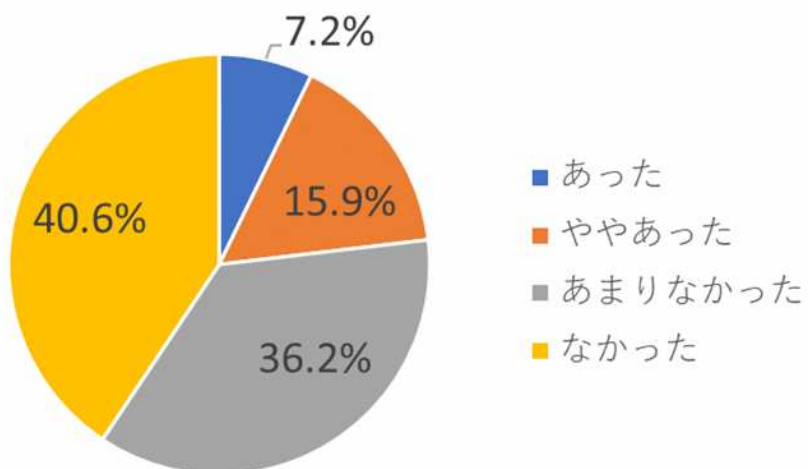
Q . あなたの年齢を教えてください。

68件回答

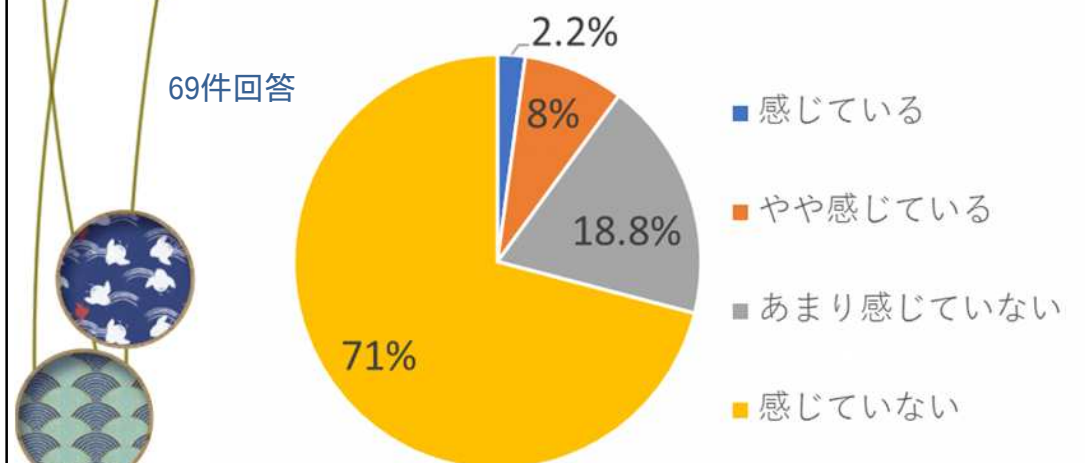


Q . 本誌をお読みにする前、
福島県産の農産物を食べることに抵抗はあったか。

69件回答

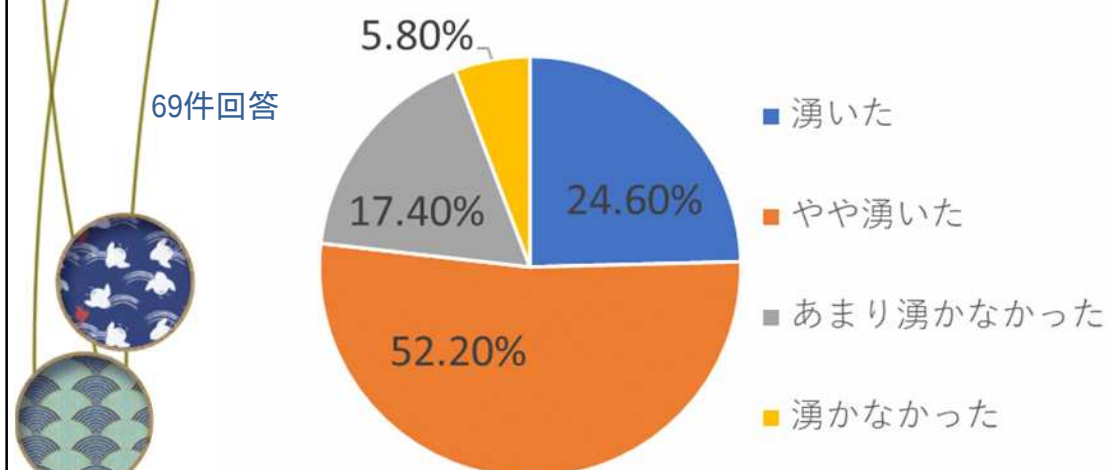


Q. 本誌を読了後、
福島県産の農産物を食べることに抵抗はあったか。



読む前と後で、「感じていない」と回答した人が25%増加！

Q. 本誌を読んで、農業に興味は湧いたか。



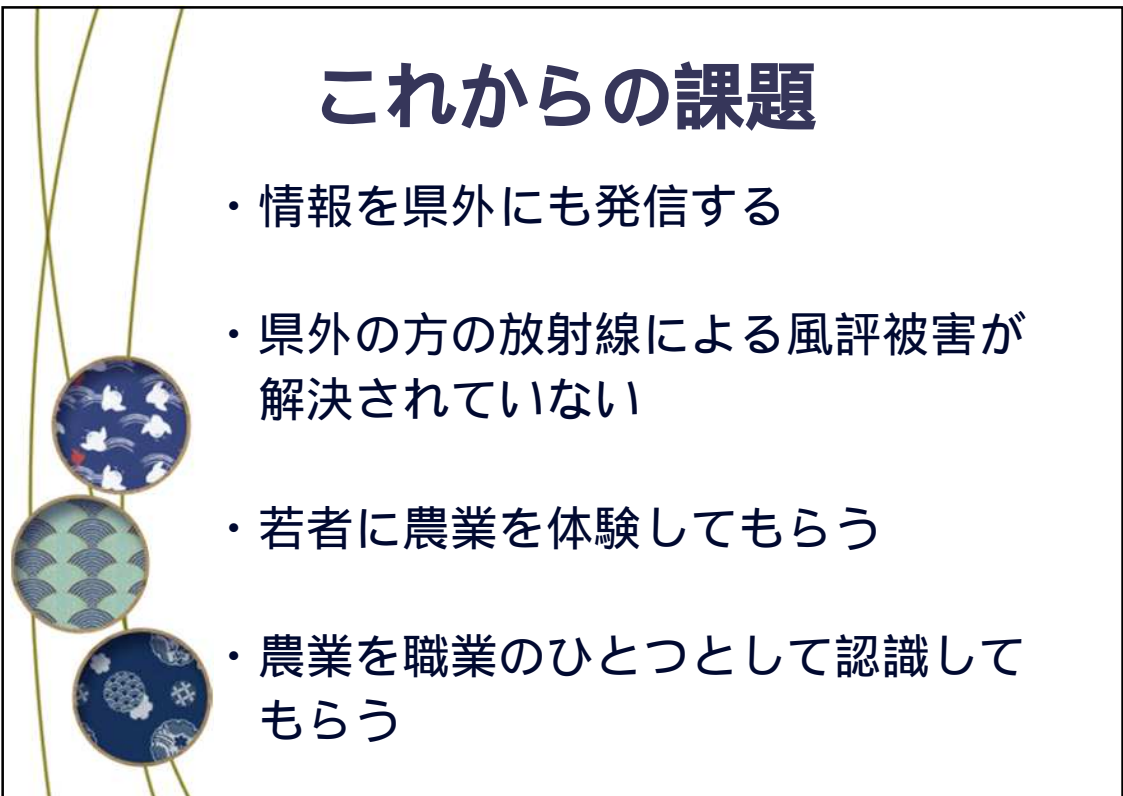
80%近くの人が、農業に関心をもってくれた！

感想、ご意見の紹介



これからの課題

- ・ 情報を県外にも発信する
- ・ 県外の方の放射線による風評被害が解決されていない
- ・ 若者に農業を体験してもらう
- ・ 農業を職業のひとつとして認識してもらう

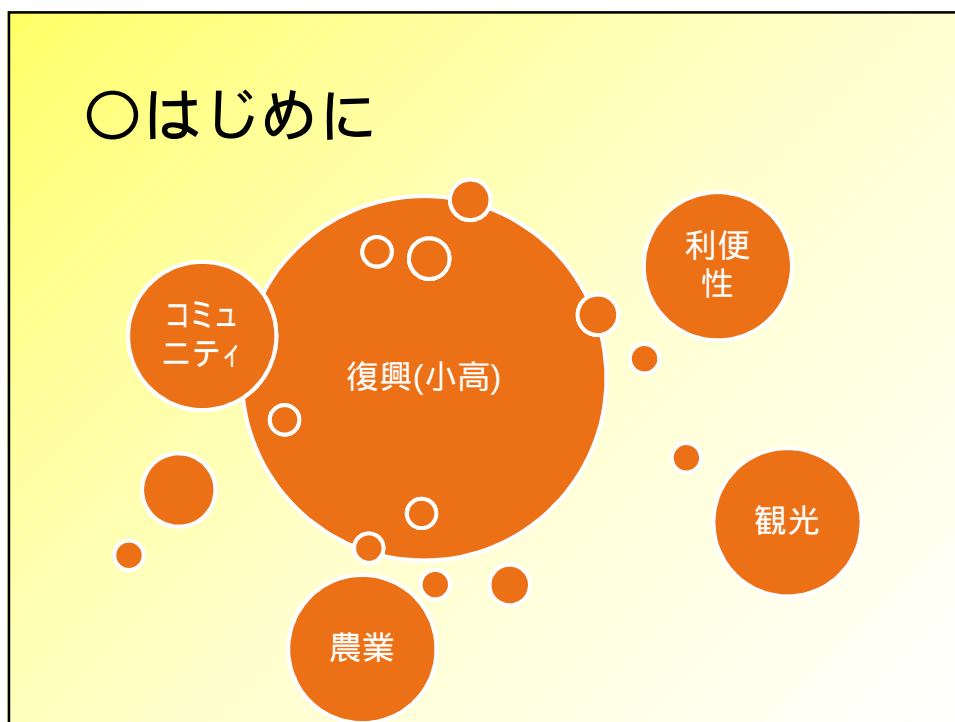


協力

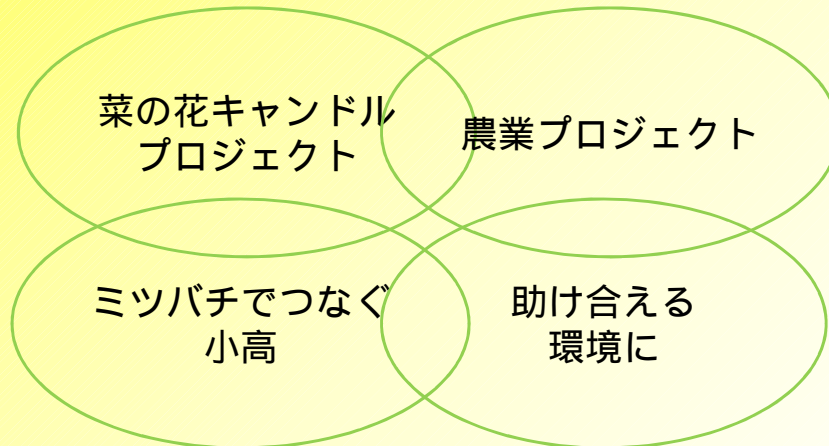
(株) 紅梅夢ファーム
NPO法人 野馬土
一般社団法人 えこえね南相馬
(株) 相馬牧場
相馬農業高校 農業クラブ
有機農家 根本洸一さん

ご協力ありがとうございました!





○うんとイトコ南相馬！season2



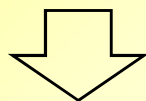
昨年度の「むらの大学」受講者の一部で構成される学生団体で、南相馬市を盛り上げ、関心を持つ人を増やしていくことを目的に活動を行っていきます！

○昨年度の活動から(キャンドル班)

「むらの大学」それぞれの班で小高区に関わり、**課題**を見つけ、報告会を終えた

ふくしま(未)来(来)学

生活1班→菜の花キャンドルの提案
生活2班→仮設住宅の生活の記録



自己学習プログラム（今年度）

福島大学生だからこそできる活動を通して、菜の花の花言葉である、「**小さな幸せ**」をテーマに今年度から「菜の花キャンドルプロジェクト」に取り組む



○菜の花キャンドルプロジェクトとは

- ・日常の中に“ちょっといいな”と思える心の豊かさ、小さな幸せが得られる体験を提供する
- ・菜の花の油を使用したキャンドルを使って、イベント等に参加する

製作風景



○プロジェクトで期待される効果

コミュニティの活性化

魅力を引き出す

南相馬市に興味をもって
もらい、足を運んでもらう

SNS等を活用した
情報発信

4月	菜の花花見会参加 (南相馬農地再生協議会)
5月	菜の花迷路キャンドルナイト(原町区)
10月	菜の花の種まき(菜の花迷路) おだか月あかりコンサート キャンドルナイト
11月	復興公営住宅でのイベント開催
12月	同上
2019年/1月	むらの大学報告会参加
2月	復興公営住宅でのイベント開催
3月	3.11慰霊祭参加(予定)
5月	菜の花迷路参加(予定)

活動記録
菜の花迷路での活動



活動記録
菜の花迷路キャンドルナイト



活動記録

おだか月あかりコンサート
キャンドルナイト



活動記録④

復興公営住宅イベント（11月）



活動記録
復興公営住宅イベント（12月）



活動を通して（感想）

- 1年次より主体性が求められるため、活動の着地点の設定が難しかった
- 自分たちでイベントを企画運営することの達成感を味わえた
- 南相馬に通うごとに住民との繋がりが強くなったという実感
- 住民の皆さんの喜んでいる顔を見られたのが1番の喜び

活動を通して（気づき）

- ・ ソフト面(コミュニティ)の復興支援の難しさの再認識
- ・ 学生に「会う」のを楽しみにしてくださっている方が多い

→学生が長期的に交流していくことの意義



学業との両立の難しさ

活動を通して（提言）

- ・ 「伝える」ことの大切さ
- ・ 長期的活動を促す福大のしくみ作り
Ex]福大の縦の関係づくり
- ・ 小さな幸せが自然にありふれる町づくり

